

福島第一原子力発電所現地確認報告書

1 確認日

令和3年9月29日（水）

2 確認箇所

瓦礫類一時保管エリアP（P1、P2）

3 確認項目

瓦礫類一時保管エリアPの現況

4 確認結果の概要

東京電力では、瓦礫類一時保管エリア（以下「一時保管エリア」という。）P排水枡において全ベータ値が上昇した事象^{*}を踏まえ、一時保管エリアP（P1、P2）の放射性物質流出抑制対策として、ノッチタンクのシート養生、ノッチタンク周辺の土壌の除去及び一時保管エリアP排水枡へのゼオライト土嚢等の設置などの対策を実施していることから一時保管エリアP（P1、P2）の現況を確認した。（図1）（前回確認：[8月20日](#)）

- ・現地確認時には、一時保管エリアP2においてコンテナ内容物の確認作業やコンテナの移動作業が行われていた。（写真1）
- ・ノッチタンクその他、一時保管エリアP2入口付近や通路付近に保管されているコンテナもシート養生されていた。（写真1）（写真2）
- ・ノッチタンクの周囲にはゼオライト土嚢が引き続き設置されていたが、ノッチタンク周辺土壌の除去範囲はこれまでと変化は見られなかった。（写真3）
- ・一時保管エリアP排水枡及び周辺の側溝には引き続きゼオライト土嚢とストロンチウム吸着材が設置されていた。（写真4）
- ・一時保管エリアP2のノッチタンク東側の側溝流入手前及び南側入口付近の排水溝流入手前並びに南側排水溝の排水口にも引き続きゼオライト土嚢が設置されていた。（写真5）

※一時保管エリアP排水枡における全ベータ値の上昇事象

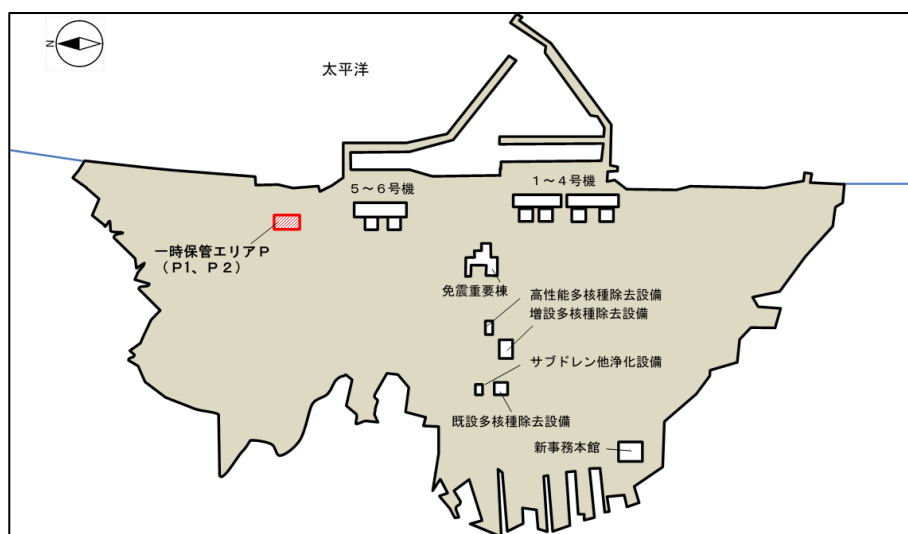
東京電力が実施している一時保管エリアP排水枡の放射能分析において、7月5日に、6月29日に採取した検体の全ベータ値が上昇していることが確認された事象。

原因調査の中で、一時保管エリアP2で廃棄物を保管しているノッチタンク2基の天板ハッチの蓋全4箇所（2箇所/基）及び天板自体がずれていること並びに同タンク内に雨水が流入して満水状態であることが確認された。

当該ノッチタンク内及びタンク天板上の水を分析したところ、それぞれ最大で、79,000Bq/L、71,000 Bq/Lの全ベータ放射能が確認され、また、当該ノッチタンクの内容物は、高ベータ汚染土壌を収めたフレキシブルコンテナバッグ

であることが確認された。

東京電力では、これらの調査結果から、ノッチタンク天板が何らかの原因（2月13日地震の可能性大）によりずれたことで、タンク本体との間に隙間が生じ、天板及びハッチで受けた雨水がタンク内に流入、その後、タンクの内容物から溶出した放射性物質を含む雨水がタンクから溢水し、そのうちの一部の水が一時保管エリアP排水枡上流の側溝に流入したことで、一時保管エリアP排水枡の全ベータ値が一時的に上昇したものと推定している。



(図1) 福島第一原子力発電所構内概略図



(写真1)
一時保管エリアP2入口付近における作業の状況（南側から撮影）



(写真 2)
一時保管エリア P 2 通路付近の状況
(南側から撮影)



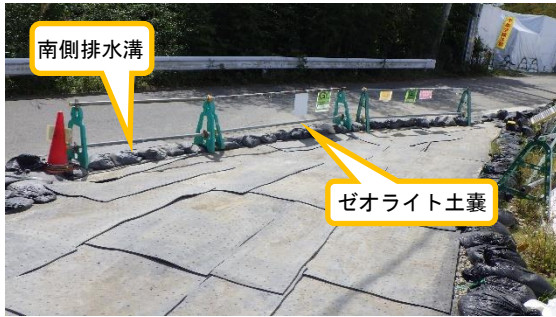
(写真 3)
ノッチタンク周辺土壌の除去状況
(南側から撮影)
※赤丸の中が土壌剥ぎ取り範囲



(写真 4)
一時保管エリア P 排水枘の状況
(南側から撮影)



(写真 5 - 1)
ノッチタンク 東側側溝手前の状況
(南側から撮影)



(写真5-2)
一時保管エリアP2南側入口付近の
状況（北側から撮影）



(写真5-3)
南側排水溝排水口の状況①
（北側から撮影）



(写真5-4)
南側排水溝排水口の状況②
（北側から撮影）

- 5 プラント関連パラメータ等確認
本日確認したデータについて、異常な値は確認されなかった。